

署名では解決できないこと

技術的なチャンネルが機密データに適していない場合、どのような署名入りの同意書であってもそれを適切にすることはありません。署名が変わるのは、それを集める側の偽りの安心感だけであり、データは全く同じ経路を通り続けます。

つまり：会議で誰かが善意を持って言います。「みんなWhatsAppを使っているんだから、顧客に同意書を書いてもらえば済む話だ」。それは勤勉に聞こえます。書類があり、署名があり、日付があるからです。しかし、その署名はデータの場所を動かしません。そして署名する人は、そのチャンネルを流れるプライバシーの唯一の当事者であることは稀です。たとえ唯一の当事者であったとしても、署名が違法行為を合法化することはありません。

良識的に見える逃げ道

その光景は、法律事務所、診察室、相談室、そしてもっと日常的な場所でも繰り返されています。顧客の部屋の写真を送る塗装業者。名前、住所、電話番号の入った請求書を転送する配管工。毎朝送迎する相手の住所をスマホに保存しているタクシー運転手。依頼主の身分証明書をチャットで送るフリーランス。自分以外の誰かのデータが電話の中を流通するのに、法廷映画のような大事件は必要ありません。

そして、どのような場所であっても、遅かれ早かれ同じような「洗練された逃げ道」が現れます。「これをここから送っていいのだろうか？」という疑問が呈され、会話が気まずくなる前に、心地よい答えが届きます。「顧客に同意書を書いてもらおう。許可をもらえば大丈夫だ」と。

この逃げ道は魅力的です。なぜなら、ツールを変える必要もなく、新しいことを学ぶ必要もなく、コストもかからずに気まずさを解消してくれるからです。それは文書、署名、日付という「勤勉さ」の形をしています。しかし、解決しようとした問題は解決されていません。ただ蓋をしただけです。

署名はデータを動かさない

見落とされがちな、最も単純なことから始めるのが良いでしょう。同意書は紙切れに過ぎません。それはメッセージがどこを通るか、どのサーバーにコピーが残るか、適切な命令があれば、あるいは漏洩が起きれば誰がそれを読めるかを変えるものではありません。顧客の書類は、署名の有無にかかわらず、同じ国の、同じ会社が管理する、同じインフラを通り続けます。

署名によって変わるのは、専門家の心の状態だけです。疑念から、データの経路に実質的な変化がないにもかかわらず得られる「偽りの安心感」へと変わります。署名とは、全く同じことをし続けるために自分自身に与える許可なのです。

その場にいる誰も与えることのできなかった許可

ここが問題の核心です。離婚問題を考えてみましょう。顧客は同意書に署名します。「いいですよ、私のデータは必要なところへ送ってください」と。しかし、そのチャンネルを流れるのは顧客のデータだけではありません。相手方の名前も流れます。親権が争われている未成年のデータも流れます。鑑定人の報告書、第三者の証言、配偶者の口座番号も流れます。

これらの人々は誰も事務所に来ていません。誰も署名していません。専門家は、問題のすべてではなかった唯一の人物から許可を得て、問題の核心であるすべての人々のデータを、彼らに何も求めずに扱い続けたのです。求めることができなかったからです。

他の従業員に言及した労働記録、親族について語る臨床報告書、顧客自身のサプライヤーや顧客を記載した申告書でも同じことが起こります。第三者の情報は、それを提供した人物が紙に署名したからといって、保護されなくなるわけではありません。それは提供した人物が許可できるものではなかったのです。

署名では届かない場所がある

私たちがほとんど試すことのない限界があります。署名が及ぶ範囲は、自分の持ち物の範囲までです。自分のものは譲渡できます。他人のものは、どれほど綺麗な字で署名しても、譲渡することはできません。

親であっても、子供に危害を加える許可証に署名することはできません。その紙には何の価値もありません。それは印鑑がないからではなく、そのような許可を与える権利が最初から親にはないからです。顧客の同意も同様です。それはその顧客自身の範囲をカバーするだけで、そこで止まります。

そして、その範囲内であってもすべてをカバーできるわけではありません。誰が署名しようとも、署名によって法律が禁じていることが適法になることはありません。同意はマスターキーではありません。それは自分自身のドア、たった一つのドアを開ける鍵であり、そのドアでさえ、禁止されている場所へと通じているわけではないのです。

はっきりと言う必要があります。ほとんど語られることのない部分だからです。法律が許していないことを守るために署名を求めたり与えたりすることは、単に効果がないだけのニュートラルな行為ではありません。場合によっては、それ自体が新たな違反となります。問題を解決するどころか、悪化させるのです。

裏目に出る署名

そして、直視すべき転換点があります。同意を集めることは、専門家を以前の状態に留めるものではありません。さらに悪い状態に置くのです。

なぜなら、その書類は、誰かが「これは適切か？」という正しい問いを立てながら、解決策ではなくプラセボ（気休め）で答えたという証拠そのものだからです。第三者のデータが不適切な場所に流出した理由を説明しなければならない日が来たとき、署名された同意書は想像していたような盾にはなりません。リスクを知らながら署名で隠すことを選んだことを証明する書類となります。うわべだけの勤勉さは痕跡を残します。署名は問題を解決するのではなく、問題が起きた日付を記録するのです。

唯一の解決策

署名が何も解決しないなら、何が解決するのでしょうか？ 唯一の答えは、データが行くべきでない場所へ行かないようにすることです。

チャンネルが第三者に文書のコピーを渡さない場合（送信者のデバイスから受信者のデバイスへ直接送られ、途中で保存するサーバーが存在しない場合）、承認する必要も、誰かに許可を求める必要も、後で言い訳をしなければならない不都合な痕跡もありません。問題はフォームで管理されるのではなく、アーキテクチャがそもそも問題を生み出さないために消滅するのです。

これは特定のツールだけの特性ではなく、設計の特性であり、それを実現する方法は一つではありません。そのようなツールを他と区別するのは、法的告知に書かれた巧妙な約束ではなく、適正であるために誰の署名も必要としないという事実です。

署名とは、文明化された許可の求め方です。しかし、許可を求めることができるのは、目の前にいる相手に対してのみです。専門家が扱うほぼすべての機密データにおいて、プライバシーが真に問題となる当事者はその場におらず、署名することもなく、誰かが自分の代わりに署名することに信頼を置く理由もありません。だからこそ、正しい問いは常に「どうすればこれを承認させられるか」ではなく、「適切に選択されたチャンネルであれば求める必要さえない許可を、なぜ必要としているのか」なのです。

編集後記： この「Cuadernos」で企業名や製品名を挙げているのは、決して非難するためではありません。それらを構築している人々は、何百万人もの人々に利用され愛される素晴らしい仕事をしています。私たちが指摘しているのは構造的な問題であり、ブランドではなくモデルの問題です。読者に馴染みがあるため、例としてブランド名を挙げているに過ぎません。

さらに関連記事を読む

- 本手帖では、意図的に条文や判例などの詳細な法規制には触れていません。なぜなら、ここで論破しているのは法的議論ではなく、「心地よい逃げ道」だからです。チャンネルがなぜ重要であるかという法的根拠については、続く二つの手帖で扱います。

- *RGPD*とプロフェッショナル・メッセージング：なぜ多くの人が知らずに違反しているのか— 国際転送、データ管理責任者、および遡及的なデジタルの痕跡について。
- デジタル時代の守秘義務— なぜ機密性は約束ではなくアーキテクチャによって保証されるべきなのか。

[← 前へ真のプライバシー vs 表向きのプライバシー：問い直すべきこと](#)

最近の記事

- [分析・2026年5月26日 真のプライバシー vs 表向きのプライバシー：問い直すべきこと](#)
- [分析・2026年5月25日 専門的実践としてのセルフホスティング](#)
- [コンセプト・2026年5月23日 24個の単語：暗号学的アイデンティティとは何か](#)

この記事ダウンロードして、必要な場所で活用してください。

[↓ Markdown](#) [↓ テキスト形式](#) [↓ PDF](#)

ファイルはお使いのデバイスにダウンロードされます。そこから保存、Solo2 へのインポート、または任意の場所での共有が可能です。Cuadernos が送信先を決定することはありません。

封蝋・SHA-256 1a1ee54f5f709e5ce39059b93818a18e270aec4b030e9beeea2c1921dfc3f6c4

Cuadernos Lacre · [Menzuri Gestión S.L.](#) による刊行物 ·

著者：R.Eugenio · 編集：[Solo2](#) チーム

このウェブサイトはクッキーを使用しません。ブラウザが読み込むものはすべて私たちが記述または監督したもので、欧州の自社サーバーでホストされています。すなわち、匿名の訪問者カウンター（Umami、自社ホスト）と、言語セレクターおよびあなたのライト/ダークテーマ設定に必要な最小限のJavaScriptであり、その設定はあなた自身のデバイスに保存されます。外部企業のリソースなし、トラッカーなし、プロファイリングなし、データ共有なし。購読をご希望の場合：[RSS](#)。